

人も地球も健康に

Yakult

株式会社ヤクルト本社

第57期 株主通信

平成20年4月1日～平成21年3月31日

CONTENTS

- 01 株主の皆さまへ／連結業績ハイライト
- 03 セグメント別業績概況
- 06 所在地別セグメント概況
- 07 連結財務諸表等
- 10 個別財務諸表等
- 11 会社情報
- 13 世界に広がるヤクルト



To Our Shareholders

ごあいさつ



株主の皆さまには、ますますご清祥のことと心からお喜び申し上げます。

ここに、平成20年4月1日から平成21年3月31日までの経営成績につきまして、連結の業績を中心にご報告申し上げます。
平成21年6月 代表取締役社長

堀 澄也



私たちは、生命科学の追究を基盤として、
世界の人々の健康で楽しい
生活づくりに貢献します。

当期について

当期におけるわが国経済は、原油価格や原材料価格の高騰に加え、世界的な金融危機による株価の下落や円高の進行などの影響により、企業収益が大幅に減少し、雇用不安や個人所得の低下によって消費も低迷するなど、急速な景気悪化が続く厳しい状況で推移しました。

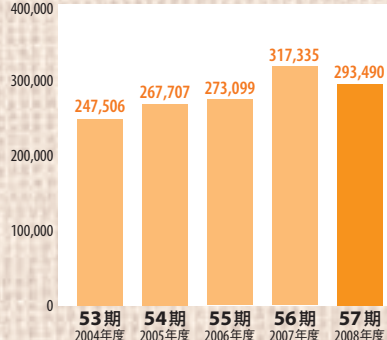
このような状況の中で、当社グループは、事業の根幹であるプロバイオティクスの啓発・普及活動を展開し、商品の優位性を訴求してまいりました。また、海外事業や医薬品事業にも積極的に取り組み、業績の向上に努めました。

この結果、当連結会計年度の売上高は293,490百万円（前期比7.5%減）となりました。利益面においては、経常利益は25,352百万円（前期比19.5%減）、当期純利益は11,324百万円（前期比32.1%減）となりました。

連結業績ハイライト

● 売上高

(百万円)



次期について

乳製品については、ヤクルト事業の創業の精神である「予防医学」「健腸長寿」の考え方の啓発・普及を推し進め、ヤクルト400類に集中した販売促進活動を展開していきます。新価値訴求型の乳製品乳酸菌飲料「BF-1/ビーエフワン」については、販売実績が好調に推移していることから、順次、販売地区を拡大していきます。

医薬品に関しては、がん化学療法剤「エルプラット」の適正使用を重視した販売活動を展開し、がん領域への特化に力を注ぎます。海外においては、「カンプト」の後発品との差別化を図るため、プラスチック・パイアル製品の販売強化に努めます。

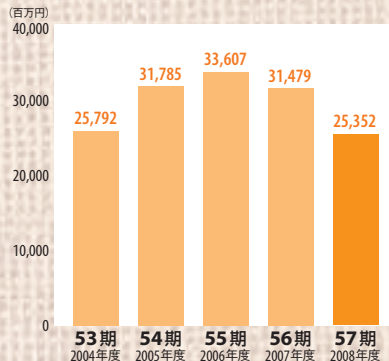
化粧品についても、カウンセリング型訪問販売に注力し、他社との差別化を図っていきたいと考えています。

株主の皆さまへ

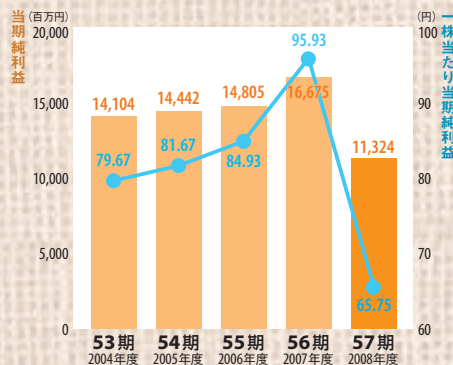
当社は、利益配分を重要な経営方針のひとつとして位置づけ、株主の皆さまに、より高いレベルで安定的な配当を実施していくことを最優先とするため、配当金額のペースを年額20円とし、そのうえで、将来の事業拡大や収益向上を図るための資金需要および財政状況ならびに当期の業績等を総合的に勘案して配当金額を決定することとしています。平成21年3月期末の配当金については、普通配当10円としました。これにより当期の1株当たり年間配当金は、すでに実施している中間配当金10円と合わせ20円となります。また、次期の配当についても、上記の方針に基づいて実施する予定であり、当期と同額の年額20円を予定しています。

一方、内部留保金については、研究開発投資や生産設備の更新に充当し、競争力の向上と企業体質の強化に努めていきます。

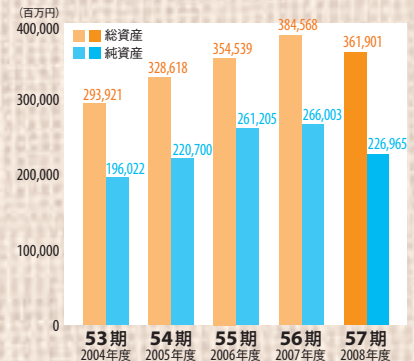
● 経常利益



● 当期純利益／一株当たり当期純利益



● 総資産／純資産



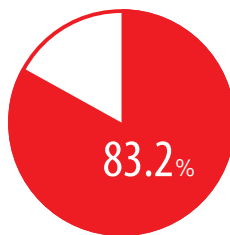
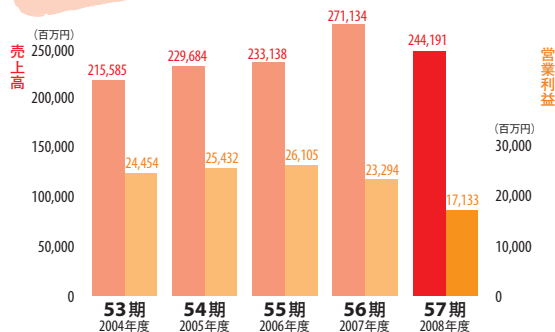
Financial Result by Segments

飲料および 食品製造販売 事業部門

当期

売上高 244,191 百万円
(前期比： 9.9% ↓)

営業利益 17,133 百万円
(前期比： 26.4% ↓)



売上高構成比

乳製品については、「乳酸菌 シロタ株」の価値訴求を徹底し、昨年9月に乳製品乳酸菌飲料「ヤクルト400LT」を発売するなど、ヤクルト400類が前期を上回る実績を示しましたが、乳製品全体としてはほぼ前期並みの実績にとどまりました。一方、ジュース・清涼飲料については、健康機能性食品のラインアップの充実を図り、販売強化に努めたものの、前期を下回る実績にとどまりました。海外については、順次販売エリアを拡大しています。これらの結果、当事業部門の連結売上高は244,191百万円（前期比9.9%減）となりました。

NEWS & TOPICS

2009年 ニュース&トピックス

「ソフル」 新パッケージデザインにリニューアル

2009年6月、ハードタイプヨーグルト「ソフル」3品目（「プレーン」「ストロベリー」「LT（エルティアー）」）のパッケージ



デザインを約4年ぶりにリニューアルしました。従来の「乳酸菌 シロタ株」の機能性に加え、「ソフル」の持つおいしさをお客さまに訴求するため、清潔感のある白を基調に、フレッシュさをイメージできるイラストを配しました。機能性とおいしさを兼ね備えたパッケージデザインにリニューアルすることにより、「ソフル」の売上拡大を図ります。

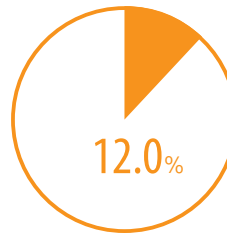
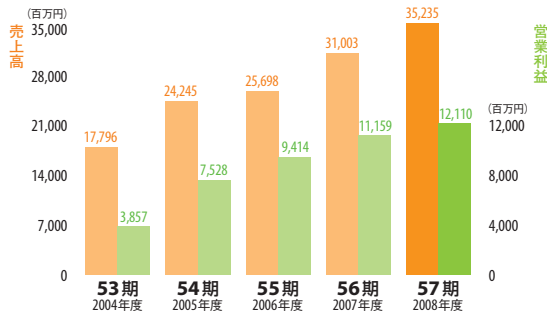


医薬品 製造販売 事業部門

当期

売上高 35,235 百万円
(前期比：13.7% ▲)

営業利益 12,110 百万円
(前期比：8.5% ▲)



売上高構成比

国内において、本年1月にがん化学療法剤「エルプラット」の「注射用50mg」を発売し、「エルプラット」の適正使用をさらに重視した販売活動を展開しました。また、がん化学療法剤「カンプト」、活性型葉酸製剤「レボホリナートヤクルト」など、がん領域への特化と販路拡大に力を注ぎました。海外では、欧州の主要国で「カンプト」の販売に関する優先権が存続していることから、売り上げは順調に推移しました。これらの結果、国内、海外ともに前期を上回る実績となり、当事業部門の連結売上高は35,235百万円(前期比13.7%増)となりました。

「タフマン」ブランドを全面リニューアル&シリーズ品「タフマンCHANGE」を新発売

19 80年の発売以来、栄養補給等を目的とした食系栄養ドリンクとしてミドルエイジ（40～50代）の男性を中心に好評をいただいている「タフマン」ブランドを、2009年6月、全面リニューアルしました。「タフマン」、「タフマンV」、「タフマンG1000」のリニューアルに

加え、“メンタル面の切り替え”を目的としたシリーズ品「タフマンCHANGE」を新発売。内容成分やパッケージデザインを変更したことで、タフマンブランド全体をさらに活性化し、売上拡大を図ります。



Financial Result by Segments

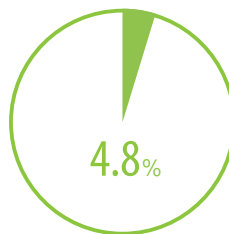
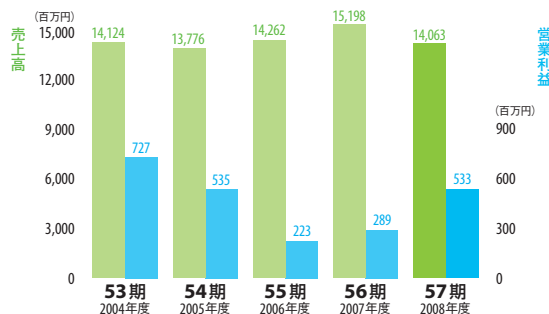
セグメント別業績概況

その他 事業部門

当期

売上高 14,063 百万円
(前期比: 7.5% ↓)

営業利益 533 百万円
(前期比: 84.1% ↑)



化粧品については、「パラビオ」進化型シリーズにおいて、アンチエイジング世代のお客さまに素肌の若返りを提案する販売活動を展開しました。また、主力商品である「リベシィ」が新たなシリーズとして生まれ変わるとともに、ラインアップの充実を図りました。この結果、化粧品全体としては、ほぼ前期並みの実績となりました。一方、プロ野球興行については、積極的なファンサービスや情報発信などを行いました。入場者数が伸び悩み、広告収入も減少しました。これらの結果、当事業部門の連結売上高は14,063百万円（前期比7.5%減）となりました。

Yakult Beautiens 「パラビオ」進化型シリーズに ホワイトニング2品目を追加発売

エイジングコントロールの「パラビオ」進化型シリーズとして、2009年5月、ホワイトニング2品目「ACホワイトニングエッセンス」「ACホワイトニングエッセンスマスク」が新たに加わりました。従来品に配合されていた「ラメラ粒子」と「ラメラ粒子（ビタミンC内包）」を進化型に変更し、保湿成

分「サクラ葉エキス」「ゲットウ葉エキス」を新たに配合しました。これにより、美白効果はもちろん、浸透力や保湿力が向上したことにより、年齢を重ねた大人の女性のお肌にキメ・つや・ハリ、そしてみずみずしさと呼び覚まし、くすみのない白く透き通るお肌へとみちびきます。



Financial Result by Regions

所在地別セグメント概況

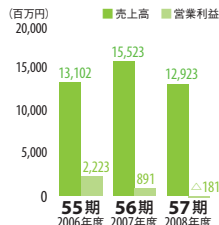


ヨーロッパ地域

売上高 **129** 億円(前期比: 16.8% ↓)

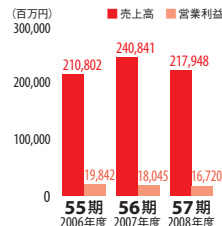
ヨーロッパ地域

ヨーロッパ地域においては、乳製品乳酸菌飲料「ヤクルト」などをオランダで製造し、同国を含め、ベルギー、イギリス、ドイツ、オーストリア、イタリアなどで販売しています。新規進出国では販売実績は順調に推移していますが、既存進出国を中心としたプロバイオティクス市場の成長により、ヨーロッパ地域全体で他社との競争が激化しています。



日本

売上高 **2,179** 億円(前期比: 9.5% ↓)

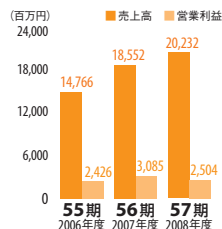


アジア・オセアニア地域

売上高 **202** 億円(前期比: 9.1% ▲)

アジア・オセアニア地域

アジア・オセアニア地域においては、香港、シンガポール、インドネシア、オーストラリア、マレーシア、ベトナム、インド、中国で乳製品乳酸菌飲料「ヤクルト」などを製造、販売しています。中国では、広州、上海、北京を中心に販売エリアを拡大しています。また華北地区への商品供給のため、天津ヤクルト株式会社を設立し、中国で3番目となる工場の建設を進めています。

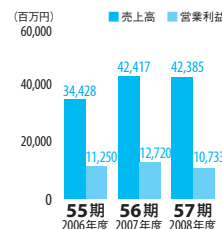


米州地域

売上高 **423** 億円(前期比: 0.1% ↓)

米州地域

米州地域においては、ブラジルおよびメキシコで乳製品乳酸菌飲料「ヤクルト」などを製造、販売し、アルゼンチン、アメリカなどでは「ヤクルト」を輸入販売しています。ブラジル、メキシコ、アメリカで順調に販売本数を伸ばし、前期を上回りました。メキシコでは、昨年10月に「ヤクルト40LT」の販売を開始しています。



Consolidated Financial Statements

連結貸借対照表

科目	第56期	第57期
	平成20年3月31日現在	平成21年3月31日現在
資産の部		
流動資産	184,659	162,402
現金及び預金	81,172	66,352
受取手形及び売掛金	49,199	48,590
有価証券	258	—
たな卸資産	34,879	—
商品及び製品	—	7,054
仕掛品	—	1,903
原材料及び貯蔵品	—	22,256
繰延税金資産	6,449	7,588
その他	13,771	9,215
貸倒引当金	△ 1,072	△ 559
固定資産	199,909	199,499
有形固定資産	116,077	131,320
建物及び構築物	43,259	40,661
機械装置及び運搬具	31,517	27,878
土地	33,303	35,658
リース資産	—	15,040
建設仮勘定	4,769	9,026
その他	3,227	3,055
無形固定資産	4,670	4,375
のれん	1,164	722
リース資産	—	150
その他	3,505	3,503
投資その他の資産	79,161	63,802
投資有価証券	70,393	51,126
長期貸付金	709	647
繰延税金資産	1,798	5,997
その他	6,530	6,359
貸倒引当金	△ 270	△ 327
資産合計	384,568	361,901

単位：百万円

科目	第56期	第57期
	平成20年3月31日現在	平成21年3月31日現在
負債の部		
流動負債	88,991	93,627
支払手形及び買掛金	23,791	22,845
短期借入金	29,591	36,979
リース債務	—	5,171
未払法人税等	1,552	1,174
繰延税金負債	599	42
賞与引当金	4,422	4,738
役員賞与引当金	168	—
工場再編損失引当金	516	1,027
設備支払手形	5,664	1,458
その他	22,684	20,188
固定負債	29,574	41,308
長期借入金	4,472	4,388
リース債務	—	10,257
繰延税金負債	5,533	2,423
退職給付引当金	15,970	16,394
役員退職慰労引当金	1,053	332
工場再編損失引当金	—	2,095
負ののれん	—	344
その他	2,544	5,071
負債合計	118,565	134,935
純資産の部		
株主資本	236,764	241,514
資本金	31,117	31,117
資本剰余金	40,955	41,135
利益剰余金	172,273	178,214
自己株式	△ 7,581	△ 8,953
評価・換算差額等	516	△ 35,866
その他有価証券評価差額金	193	△ 1,440
為替換算調整勘定	323	△ 34,425
少数株主持分	28,721	21,317
純資産合計	266,003	226,965
負債・純資産合計	384,568	361,901

連結損益計算書

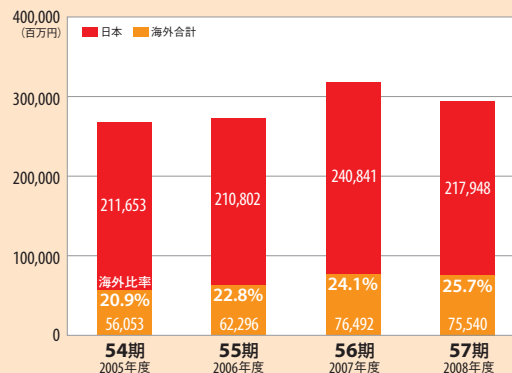
単位：百万円

科目	第56期	第57期
	平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで	平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで
売上高	317,335	293,490
売上原価	148,140	138,632
売上総利益	169,194	154,857
販売費及び一般管理費	146,692	138,113
販売費	69,969	63,595
一般管理費	76,722	74,518
営業利益	22,502	16,743
営業外収益	11,766	10,284
受取利息	3,352	3,048
受取配当金	576	605
為替差益	216	2,675
負ののれん償却額	48	76
ロイヤリティ収入	2,559	494
持分法による投資利益	3,218	1,451
その他の営業外収益	1,794	1,932
営業外費用	2,790	1,676
支払利息	305	920
支払手数料	212	312
商品及び製品等廃棄損	498	—
貨幣価値変動損	921	—
その他の営業外費用	852	443
経常利益	31,479	25,352
特別利益	4,416	661
固定資産売却益	900	500
和解金収入	1,961	—
その他の特別利益	1,553	161
特別損失	1,849	12,868
固定資産売却損	142	63
固定資産除却損	931	662
投資有価証券評価損	—	7,996
工場再編損失引当金繰入額	273	2,910
過年度役員退職慰労引当金繰入額	277	—
その他の特別損失	224	1,235
税金等調整前当期純利益	34,045	13,145
法人税、住民税及び事業税	6,669	5,821
法人税等還付額	1,179	512
法人税等調整額	7,659	△7,951
少数株主利益	4,220	4,464
当期純利益	16,675	11,324

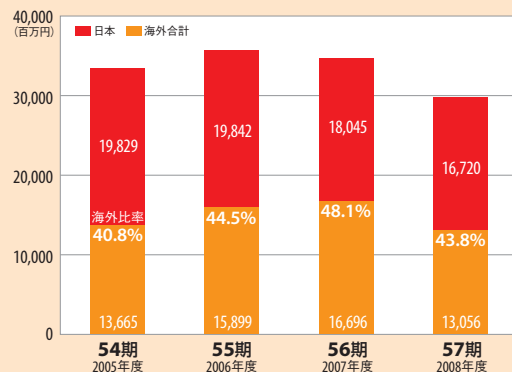
平成21年3月期のポイント

1. 為替・原材料高騰の影響により減収・減益
2. 医薬品は好調を維持
3. 海外は現地通貨ベースで引き続き好調

売上高推移（連結）



営業利益推移（連結）



Consolidated Financial Statements

連結財務諸表等

連結キャッシュ・フロー計算書

科目	第56期	第57期
	平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで	平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	34,045	13,145
減価償却費	12,053	18,570
諸引当金の増減額	△1,654	2,430
受取利息及び受取配当金	△3,929	△3,654
支払利息	305	920
持分法投資利益	△3,218	△1,451
有形固定資産除売却損益	173	224
投資有価証券評価損益	—	7,996
その他損益	2,528	1,278
売上債権の減少(△増加)額	△385	△3,070
たな卸資産の減少(△増加)額	△4,271	1,439
仕入債務の増加(△減少)額	△2,513	338
その他資産負債による増減額	△689	△1,263
小計	32,444	36,905
利息及び配当の受取額	4,837	4,356
利息の支払額	△314	△929
法人税等の支払額	△11,789	△6,415
法人税等の還付額	—	3,641
営業活動によるキャッシュ・フロー	25,177	37,559
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△168	△7,369
定期預金の払戻による収入	—	9,960
固定資産の取得による支出	△25,485	△28,078
固定資産の売却による収入	1,339	1,207
投資有価証券の取得による支出	△9,893	△232
投資有価証券の売却等による収入	35	—
連結範囲の変更を伴う子会社株式の取得	△10	△556
子会社株式の取得による支出	△40	△260
資金貸付による支出	△207	△135
貸付金回収による収入	153	321
その他	△130	114
投資活動によるキャッシュ・フロー	△34,408	△25,029

単位：百万円

科目	第56期	第57期
	平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで	平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額	20,290	7,485
長期借入による収入	4,055	871
長期借入金返済による支出	△1,220	△1,334
リース債務の返済による支出	—	△5,725
自己株式の取得による支出	△4,796	△14
自己株式の売却による収入	—	487
少数株主による株式払込収入	550	—
配当金の支払額	△3,110	△3,872
少数株主に対する配当金の支払額	△1,276	△1,105
その他	△5	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	14,486	△3,208
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1,524	△21,551
現金及び現金同等物の増加(△減少)額	3,731	△12,229
現金及び現金同等物期首残高	70,999	74,894
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	164	—
現金及び現金同等物期末残高	74,894	62,665

ポイント

営業活動によるキャッシュ・フローは、37,559百万円（前期比12,382百万円の収入増）となりました。この収入増の主な要因は、税金等調整前当期純利益が減少したものの、減価償却費が増加、たな卸資産が減少したこと等によるものです。

投資活動によるキャッシュ・フローは、△25,029百万円（前期比9,378百万円の支出減）となりました。この支出の主な内容は、固定資産の取得等によるものです。

財務活動によるキャッシュ・フローは、△3,208百万円（前期比17,694百万円の支出増）となりました。この支出の主な内容は、リース債務の返済、配当金の支払いによるものです。

個別貸借対照表

単位：百万円

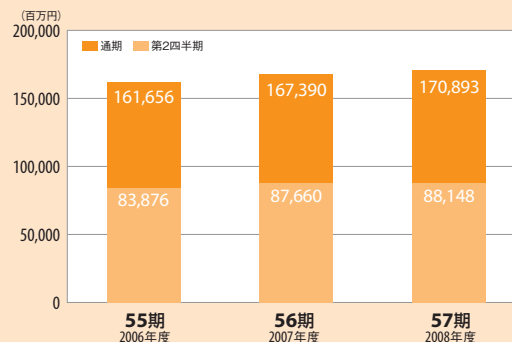
科目	第56期 平成20年3月31日現在	第57期 平成21年3月31日現在
資産の部		
流動資産	93,461	91,340
固定資産	149,717	164,999
有形固定資産	53,076	71,031
無形固定資産	3,239	3,192
投資その他の資産	93,401	90,776
資産合計	243,179	256,340
負債の部		
流動負債	70,005	81,186
固定負債	13,615	22,437
負債合計	83,620	103,624
純資産の部		
株主資本	159,708	154,376
資本金	31,117	31,117
資本剰余金	40,659	40,659
資本準備金	40,659	40,659
利益剰余金	95,293	89,975
利益準備金	7,779	7,779
その他の利益剰余金	87,514	82,196
固定資産圧縮積立金	—	740
別途積立金	77,000	81,000
固定資産圧縮特別勘定積立金	746	—
繰越利益剰余金	9,768	455
自己株式	△7,361	△7,376
評価・換算差額等	△150	△1,660
その他有価証券評価差額金	△150	△1,660
純資産合計	159,558	152,716
負債・純資産合計	243,179	256,340

個別損益計算書

単位：百万円

科目	第56期 平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで	第57期 平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで
売上高	167,390	170,893
売上原価	101,011	105,969
売上総利益	66,379	64,923
販売費及び一般管理費	62,597	61,294
営業利益	3,782	3,629
営業外収益	9,813	7,401
営業外費用	856	1,068
経常利益	12,739	9,962
特別利益	3,272	309
特別損失	2,087	13,339
税引前当期純利益又は税引前当期純損失(△)	13,924	△3,067
法人税、住民税及び事業税	70	222
法人税等還付額	1,179	325
法人税等調整額	6,866	△1,529
当期純利益又は当期純損失(△)	8,166	△1,434

売上高推移（個別）



Information

各地区販売会社・瓶詰会社

ヤクルト本社

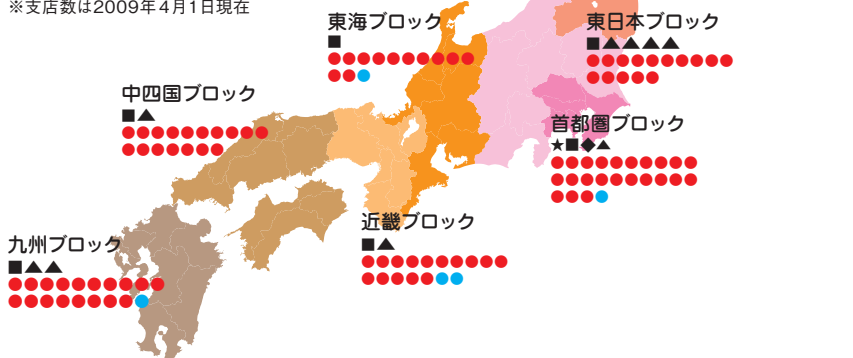
★本店：1 ■支店：8 ◆研究所：1 ▲工場：10

●販売会社129社
(うち連結子会社26社)

●瓶詰会社6社(連結子会社)

ヤクルトレディ 約43,000人
ヤクルトピューティ 約8,000人

※支店数は2009年4月1日現在



海外事業所

- 台湾ヤクルト株式会社
 - 香港ヤクルト株式会社
 - タイヤクルト株式会社
 - 韓国ヤクルト株式会社
 - フィリピンヤクルト株式会社
 - シンガポールヤクルト株式会社
 - インドネシアヤクルト株式会社
 - オーストラリアヤクルト株式会社
 - マレーシアヤクルト株式会社
 - ベトナムヤクルト株式会社
 - インドヤクルト・ダノン株式会社
 - 中国ヤクルト株式会社
 - 広州ヤクルト株式会社
 - 上海ヤクルト株式会社
 - 北京ヤクルト販売株式会社
 - 上海ヤクルト販売株式会社
 - ブラジルヤクルト商工株式会社
 - メキシコヤクルト株式会社
 - アルゼンチンヤクルト販売株式会社
 - アメリカヤクルト株式会社
 - ヨーロッパヤクルト株式会社
 - オランダヤクルト販売株式会社
 - ベルギーヤクルト販売株式会社
 - イギリスヤクルト販売株式会社
 - ドイツヤクルト販売株式会社
 - オーストリアヤクルト販売株式会社
 - イタリアヤクルト販売株式会社
- 非営利法人ヤクルト本社ヨーロッパ研究所

※●は連結子会社です。

連結子会社(72社)

主要な連結子会社

- 千葉中央ヤクルト販売株式会社(「ヤクルト」等の販売)
- 株式会社神戸ヤクルト工場(「ヤクルト400」等の瓶詰)
- ヤクルト商事株式会社(「ヤクルト」等の販売用資機材の販売)
- 株式会社ヤクルトマテリアル(香料等の製造販売)
- ヤクルト食品工業株式会社(麺類の製造販売)
- 中央ヤクルト物流株式会社(「ヤクルト」等の輸送)
- 株式会社ヤクルト球団(プロ野球の興行)
- メキシコヤクルト株式会社(「ヤクルト」等の製造販売)

会社概要

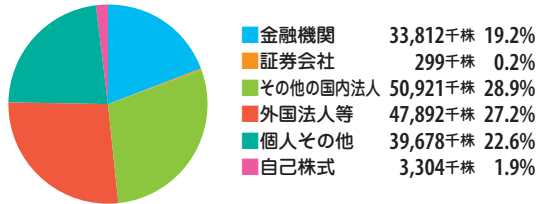
商号 株式会社ヤクルト本社
(YAKULT HONSHA CO.,LTD.)
設立 昭和30年4月9日
本店 東京都港区東新橋1丁目1番19号
電話 03(3574) 8960 (大代表)
資本金 311億17百万円
従業員 2,442名

(注) 上記従業員数には、出向者・嘱託は含まれていません。

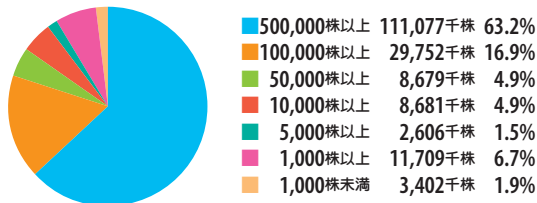
株式の状況

発行可能株式総数……………700,000,000株
発行済株式総数……………175,910,218株
株主数……………28,855名

所有者別分布状況



所有株式数別分布状況



役員 (2009年6月24日現在)

代表取締役社長	堀 澄也	取締役	阿部 晃範	取締役	池上 昭二
専務取締役	寺田 清	取締役	椎野 健一	取締役	竹村 雅行
専務取締役	川端 美博	取締役	田中 良明	取締役	荒木 敏博
専務取締役	衣笠 剛	取締役	菊池 清隆	取締役	阿部 泰久
専務取締役	甲斐 千束	取締役	若林 宏	常勤監査役	大坪 勝己
専務取締役	根岸 孝成	取締役	田中 正喜	常勤監査役	田中 竹義
常務取締役	村田 泰文	取締役	石川 文保	監査役	中村 輝夫
常務取締役	根岸 正広	取締役	ジャックヴァンサン	監査役	奥平 哲彦
取締役	阪本 重善	取締役	スヴェントマレン	監査役	角屋 良平
取締役	成田 裕	取締役	安田 隆二	監査役	池田 雅彦
取締役	澤田 治司	取締役	リチャードホール	監査役	谷川 清十郎

大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
エムエルピーエフエス ノミニー・ダノン アジア ホールディングス プライベートリミテッド	35,212	20.02
松尚株式会社	11,530	6.55
株式会社フジ・メディア・ホールディングス	6,492	3.69
日本トラスティ・サービス信託銀行 株式会社(信託口4G)	5,289	3.01
みずほ信託銀行株式会社 退職給付信託 みずほ銀行口	4,957	2.82
日本トラスティ・サービス信託銀行 株式会社(信託口)	4,195	2.38
共進会	3,996	2.27
日本生命保険相互会社	2,920	1.66
麒麟ビバレッツ株式会社	2,458	1.40
株式会社みずほ銀行	2,186	1.24

(注) 共進会は、当社の取引先であるヤクルト販売会を会員とする持株会です。
上表のほか、当社は自己株式3,304千株を保有しています。

Globalizing the Yakult Network ~2,500万本のヤクルト



現在27の事業所および1つの研究所を中心に、
 テスト販売を含め31の国と地域で
 主として乳製品乳酸菌飲料「ヤクルト」の
 製造、販売を行っています。
 世界中で毎日2,500万人以上の方々に
 ご愛飲いただいています。

株式会社ヤクルト本社



<http://www.yakult.com.cn/>



アメリカヤクルト株式会社

上海ヤクルト株式会社・上海ヤクルト販売株式会社
ヤクルト株式会社

台湾ヤクルト株式会社



ヤクルト株式会社



メキシコヤクルト株式会社



フィリピンヤクルト株式会社



ヤクルト株式会社



ブラジルヤクルト商工株式会社

アルゼンチンヤクルト販売株式会社



オーストラリアヤクルト株式会社



ホームページのご紹介

当社のホームページでは、会社情報、IR情報、商品情報、環境対策などさまざまな最新情報を掲載しております。特に株主・投資家の皆さま向けましては、トップメッセージ、決算短信、有価証券報告書のほかIRニュースなども掲載しております。ぜひご覧ください。



<http://www.yakult.co.jp/>

株主優待

当社商品の提供

毎年3月31日現在で100株以上所有の株主の皆さま

- 当社「化粧品」「乾めん詰め合わせ」「ジュース詰め合わせ」のうちお好きな商品を進呈（※1,000株以上所有の株主の皆さまは商品内容が異なります）。

東京ヤクルトスワローズが神宮球場で主催するプロ野球公式戦「株主優待証(外野自由席)」の提供

毎年9月30日現在で1,000株以上所有の株主の皆さま

- 対戦するセ・リーグ5チームにつき2試合ずつ計10試合プラス交流試合2試合で計12試合まで。1試合につき外野自由席の入場券2枚まで引き換え可。

毎年9月30日現在で100～999株所有の株主の皆さま

- 年間2試合まで（4～6月で1試合+7月以降で1試合）。1試合につき外野自由席の入場券2枚まで引き換え可。

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年の3月31日まで	
株主総会	定時株主総会	毎年6月中
	臨時株主総会	必要に応じ随時
基準日	定時株主総会の議決権	3月31日
	期末配当金	3月31日
	中間配当金	9月30日

公告掲載方法 電子公告 <http://www.yakult.co.jp/>
ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

株主名簿管理人 東京証券代行株式会社

事務取扱場所 〒100-0004
東京都千代田区大手町二丁目6番2号
(日本ビル4階)

(郵便物送付先)
連絡先 〒168-8522
東京都杉並区和泉二丁目8番4号
東京証券代行株式会社 事務センター
☎0120-49-7009

I. 株式に関するお手続きについて

平成21年1月5日(月)から、当社を含むすべての上場会社は株券電子化制度へ移行しており、株主さまの権利は電子的に証券会社等の口座で管理されております。これにとまじり、現在の各種手続きのお申し出先は以下のとおりとなっております。

1. 未支払配当金のお支払い
これまでもあり、株主名簿管理人である東京証券代行株式会社にお申し出ください。
2. 住所変更、単元未満株式の買取請求、配当金受取方法の指定等
お取引引きの証券会社等にお申し出ください。

なお、株券電子化制度への移行までに証券会社等を通じて証券保管振替機構(ほふり)に株券を預託されなかった株主さまの株式につきましては、当社が東京証券代行株式会社に口座(特別口座)を開設して管理しております。

特別口座に記録された株式の手続き(証券会社に開設した口座への振替など)に関しましては、すべて当社の特別口座管理機関である東京証券代行株式会社にお問い合わせください。

II. 上場株式配当等の支払いに関する通知書について

租税特別措置法の平成20年改正(平成20年4月30日法律第23号)により、平成21年1月以降にお支払いする配当金につきましては、株主さま宛てに配当金額や源泉徴収税額等を記載した「支払通知書」をご送付することが義務づけられました。

現在、「配当金領収証」にて配当金をお受け取りの株主さまにつきましては、平成21年中にお支払いした配当金に係る「支払通知書」を、平成21年末または平成22年初めにご送付いたしますのでご承知置きください。また、口座振込を指定されている株主さまにつきましては、ご送付している「配当金計算書」が「支払通知書」となります。

なお、「支払通知書」および「配当金計算書」は、確定申告を行う際の添付資料としてご使用いただくことができます。

Yakult

株式会社ヤクルト本社 証券コード2267
東京都港区東新橋1丁目1番19号 TEL:03-3574-8960(大代表)

PRINTED WITH
SOY INK
本報告書は、環境保全のため再生紙を使用し、
大豆由来のインクで印刷しております。